

編集 後記

編集顧問 町田豊平
編集委員 郡 健二郎

小川秋實 秋元成太 村井 勝
藤岡知昭 大家基嗣

「2D：4D」と聞いてピンと来た読者の皆様はその道のプロと言って良いかもしれません。「3D じゃないのか。テレビだろ。」と思った方は私と同じレベルです。「2D：4D」とは第2指と第4指の長さの比をとった数値であり、胎生期のテストステロン分泌のマーカーとして広く知られているものです。2010年の第10回日本Men's Health医学会は帝京大学の堀江重郎教授が主催されました。第2回泌尿器抗加齢研究会と第1回テストステロン研究会も合同開催され、内容の豊富さと学問的な充実度で参加者はとても満足されたのではなかったかと思います。

「2D：4D」もこれらの会で私がにわか勉強して身に付けた知識です。札幌医科大学の久末伸一先生が「男性外来患者におけるテストステロン値と2D：4Dの関連」という演題で発表されていました。「2D：4D」はテストステロン値と中等度の相関関係を認めたとのことでした。成人のテストステロン値の個人差に胎生期のテストステロン値が関与している可能性が示唆されていました。講演を聞きながらしげしげと自分の手を眺めると、確かに第4指の方が長いことがわかりました。教室の先生をつかまえて手を見せてもらいましたが、皆さんしっかりと第4指の方が長かったです。逆に、短いかあんまり変わらないヒトは本当にいるのかなと疑問が湧いてきました。泌尿器科医であるということにバイアスがかかっていて、テストステロン値が高い人達の集団なのかなと考えていました。

ある日、品川駅で新幹線の発車まで時間があつたので、「駅中」の丸善に立ち寄ってみたところ平積みになっている新書が目につきました。タイトルは「女は男の指を見る」です（竹内久美子著：新潮選書）。これは「2D：4D」の本に違いないととっさに感じて購入しました。新幹線の中で紐解いたところ、確かに予想は的中していました。女性は男性の指を見て、生殖能力のほどを見抜いている、というのが結論です。私の疑問も解決しました。教室員はみんな薬指が長いと感じたのは、実は計測方法が違っていて、手の甲ではなく掌側を測るのが正しいそうです。確かに手の甲側では指が長く見えます。この本の内容は納得することばかりで頷きながら読み進んでいきました。

しかし、納得がいかないのが、現代のモテ系男子です。「草食系男子」という言葉は若い男性の傾向であるばかりでなく、現代女性の好みを象徴しているものと考えられます。「草食系男子」はどう考えてもlowテストステロンです。「繁殖」を放棄した現代の女子が行き着いた先のトレンドと思うと急に寂しくなりました。今の女性は指を見ることを忘れていませんか。1980年代の女性は確実に男性の手を見ていました。「生ビール買い求めいる君の手をふと見るそしてつくづくと見る」（俵万智 サラダ記念日 1987年河出文庫）。時代の流れとして済まされない問題が潜んでいるような気がします。

（大家基嗣）

臨床泌尿器科（第65巻第6号）（通巻776号）
2011年5月20日発行（毎月1回20日発行）

定価 2,835 円（本体 2,700 円＋税 5%）

2011 年年間購読料			
冊子のみ	41,360 円	冊子＋電子版	53,800 円
電子版/個人	41,360 円	電子版/共有	47,570 円
増刊号を含む 13 冊，税込，送料小社負担			

発行 株式会社 医学書院
代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23
電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5709
(担当：登・安部)
販売部直通 (03) 3817-5659・5660
ファクシミリ (03) 3815-7802

E-mail：rinpi@igaku-shoin.co.jp
振替口座 東京 00170-9-96693 番
印刷所 三報社印刷㈱ 電話 (03) 3637-0005
広告申込所 (有)文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

- ・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2011, Printed in Japan.
- ・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信（送信可能化権を含む）に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- ・ 医学書院ホームページ（インターネット）は Web <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。
- ・ 「臨床泌尿器科」のページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/rinpi/> です。
- ・ **JCOPY** <㈱出版者著作権管理機構 委託出版物>
本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(㈱出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。